

参加申し込み書

FAX. 03-3756-0307

インターネットからのお申し込みは下の URL へ
https://www.sainou.or.jp/forum2019/

参加される方のお名前・ご連絡先等

ふりがな

お名前

郵便番号

住 所

電話番号

メールアドレス

勤務先

※本申込み書にご記入いただいた個人情報は、IMETS フォーラム実施に関わる確認・連絡および当財団からのご案内以外には使用いたしません。

参加区分と参加費（消費税を含みます。希望される区分の□にレ印を入れてください。「学生」は内地留学を除きます。）

小・中学校コース

2日とも参加

7月25日(木)のみ参加

7月26日(金)のみ参加

☐ 一般(11,000円)

☐ 一般(7,000円)

☐ 一般(7,000円)

☐ 学生(4,000円)

☐ 学生(3,000円)

☐ 学生(3,000円)

特別コース

7月26日(金)幼児教育実践講座

7月26日(金)カリキュラムマネジメント講座

☐ 一般(6,000円) ※教材費含む

☐ 一般(6,000円)

☐ 学生(3,000円)

☐ 学生(3,000円)

ワークショップの選択（小・中学校コース）

※前ページのプログラムからご希望の講座を第2希望まで番号および記号でご記入ください。

	第1希望	第2希望
25日(木)		
26日(金)		

会場

東京都 港区立三田中学校（東京都港区三田 4-13-13）
アクセス：最寄り駅
「田町駅」（JR 山手線・京浜東北線）徒歩 12 分
「三田駅」（都営浅草線・三田線）徒歩 12 分

お申し込み方法

参加申し込み書にご記入の上、FAX してください。
インターネットからの申し込みも可能です。
https://www.sainou.or.jp/forum2019/
※お申し込み者には、参加費の振込先や地図などをお送りいたします。

お問い合わせ先

公益財団法人 才能開発教育研究財団
教育工学研究協議会 フォーラム事務局
〒146-0083 東京都大田区千鳥 3-25-5 千鳥町ビル
電話：03-5741-1311 FAX：03-3756-0307
E-mail：forum@sainou.or.jp

主催：公益財団法人才能開発教育研究財団教育工学研究協議会
共催：一般社団法人 日本教育情報化振興会（JAPET & CEC）
後援：（申請中）文部科学省
東京都教育委員会、港区教育委員会、
全国教育研究所連盟、民間教育研究所連盟、日本教育工学会、
日本教育工学協会、NPO 法人日本教育再興連盟（ROJE）
協力：学研グループ各社

＊ IMETS：Improvement of Media Education and Teaching Studies

IMETSフォーラム 2019 第46回教育工学研修中央セミナー

研修テーマ

次世代の子どもたちに求められる資質・能力を
育てるための教育実践とICT活用

主催：公益財団法人才能開発教育研究財団 教育工学研究協議会
共催：一般社団法人日本教育情報化振興会（JAPET & CEC）

日 時

7月25日(木)・7月26日(金)
9：00～

会 場

東京都 港区立三田中学校

参加費

2日参加 11,000 円
1日参加 7,000 円 ※学生割引あり 4 ページ参照

後援：（申請中）文部科学省、
東京都教育委員会、港区教育委員会、全国教育研究所連盟、
民間教育研究所連盟、日本教育工学会、日本教育工学協会、
NPO 法人日本教育再興連盟（ROJE）

吉崎静夫先生

村川雅弘先生

竹村真一先生

天野春果先生

黒上晴夫先生

榎本竜二先生

木原俊行先生

山本シュウ先生
(レモンさん)

IMETS フォーラム 2019「次世代の子どもたちに求められる資質・能力を育てるための教育実践と ICT 活用」を研修テーマとして 2 日間のプログラムを構成しました。このフォーラムを通して、個人および組織（学校全体）として、研修テーマに示したねらいを達成するために何をすべきか、どのような授業を目指していけばよいのか、ICT などの最新の教育環境をどう活かしていけばよいのか、などについて、先進的な事例に学び、受講者の担当する学級や勤務する学校の児童生徒の学力向上に資する研修を実施します。ワークショップについては、めまぐるしく変わる教育現場の環境に対応すべく、最新の教育実践や課題に向けた講座を開設し、専門の講師をお呼びしています。

小・中学校コース

7月25日(木)

開会行事

ご挨拶 文部科学省初等中等教育局長、港区教育長
共催挨拶 日本教育情報化振興会会長 赤堀侃司

基調講演

次世代の子どもたちに求められる資質・能力
を育てるための教育実践と ICT 活用
横浜国立大学客員教授 吉崎静夫
21 世紀の社会には、「高度情報化社会」「グローバル化社会」「知識基盤社会」といった特徴があります。その社会の中で生活し、仕事する子どもたちに求められる資質・能力の代表的なものは、「情報活用能力」「言語能力」「思考力」などです。本講演では、これらの資質・能力を育成するための教育実践のあり方について、実践事例をふまえて提案します。

特別講演

東京五輪後の日本スポーツ発展に必要な人材
東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
イノベーション推進室 天野春果
1 年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックの開催を、一発の打ち上げ花火で終わらせることなく、その後の日本スポーツの発展、スポーツ文化の構築に繋げていくために求められる人材とその資質とは。

ワークショップ

概要は 2 ページをご覧ください

鼎談

カリキュラム・マネジメント推進のための
校長のリーダーシップとは
パネリスト
甲南女子大学教授 村川雅弘
他実践者 2 名
学校現場にかかわって 35 年以上になります。何千の授業を参観し、何百の学校を訪問し、何十の学校を指導してきました。その過程で自信を持って言えることは「いい学校には必ずいい校長がいる」ことです。今回で登壇いただく校長もその内の二人。主体的・対話的で深い学びの実現を目指すカリキュラム・マネジメント推進のための確かなビジョンと具体的な戦略について深く掘り下げます。

7月26日(金)

基調講演

次世代の子どもたちに求められる ICT 活用
聖心女子大学非常勤講師 榎本竜二
現在の ICT 技術はどのようなことができるようになっていて、次世代を担う子どもたちは、それをどう使いこなしていく必要があるのでしょうか。最先端の技術を興味だけで教育に持ち込んでも、望む授業改善ができるとは限りません。学習指導要領に關係した教育に効果的な ICT 活用を中心に紹介し、今後の課題も含めて考えていきます。

特別講演

レモンさんの“子育てコーチング！”
大阪大学非常勤講師 山本シュウ（レモンさん）
スポーツメンタルコーチングのプロコーチでもあるレモンさんが、コーチング要素を活用しながらの子育てを分かりやすくお伝えします。時代は「自分で考え、行動できる“自走人間”」を求めています。その具体的な考え方や、「教えるより気づかせる！」「説得より納得！」「昭和の IC（愛しいチップ）」などのビタミンを注入！

ワークショップ

概要は 3 ページをご覧ください

講演

資質・能力を育てるための多様なアプローチ
大阪教育大学教授 木原俊行
資質・能力を育てるためには、主体的・対話的で深い学びやカリキュラム・マネジメントが不可欠です。しかしながら、それを具体化する際には、多様なアプローチがありえます。各学校には、子どもたちの資質・能力の実態把握、それに応ずるための実践の工夫が求められるでしょう。講演では、そうした基本的な考え方を再確認するとともに、国内外の好事例を数多く紹介します。

閉会行事

（16：30～16：45）

※都合によりプログラムは変更になる場合があります。予めご了承ください。

4

2019 年 5 月 1 日現在

1

7/25(木) 13：15～15：15

ワークショップの概要

1 考え方を身につけるためのシンキングツール 小島亜華里 関西大学非常勤講師 教科に限らず、子どもに考えさせたい場面はたくさんあります。本セッションでは、考え方を身につけるための道具として、シンキングツールを紹介します。実際に授業ではどのように活用されているのか事例を見たり、使ってみる体験を通して、シンキングツールの活用ポイントを見つけましょう。	5 思考力・表現力を支える言語能力の育成 輿水かおり 言語教育振興財団顧問 AI との共存社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力として、思考力・判断力・表現力があります。様々な課題に対して自分なりの考えを形成する、他者の思いを的確に受け止める、その上で共によりよい解決に向かうためには、確かで豊かな言葉の力が必要です。言語能力育成のための授業改善と一緒に考えていきたいと思います。
2 低学年から始める資質・能力を育む授業のコツ 石堂 裕 兵庫県たつの市立新宮小学校主幹教諭 子どもたちの資質・能力を育むためには、探究的な授業が求められます。小学校低学年から始める探究的な授業づくりに必要なポイント（問いのつくり方、ICT の効果的活用法、カリキュラム・マネジメントによる単元づくり、そして学びの土台となる学級経営や学習環境等）を具体的な事例を基に提案し、先生方との共有を図ります。	6 NHK for School を活用した授業デザイン 宇治橋祐之 NHK放送文化研究所 小・中学校の学年・教科に対応した 80 シリーズ・2000 本に及ぶ番組、そして知識定着や調べ学習をサポートする 7000 本の動画クリップ。全国の実教育現場で利用されている NHK for School の番組、ウェブサイトを活かした授業をどうデザインすればよいのか。全国の様々な事例を基に考えていきます。
3 防災ゲームを組み込んだ授業を考えよう！ 村川弘城 日本福祉大学助教 災害の種類や規模、内容などが自由にカスタマイズできるアナログカード型の防災シミュレーションゲームを利用して授業や教材を考えてみませんか？ 講習は、三田中学校を舞台にした簡易版を体験してもらった後、ゲーム自体を考える班と授業案を考える班に分かれて開発ワークショップという流れで予定しています。	7 地球目線で考える SDGs ～デジタル地球儀「スフィア」の活用～ 竹村眞一 京都造形芸術大学教授 SDGs は、地球と人類の持続可能性に向けて世界が一致して取り組む全人類的な社会契約であり、2030 年以後に社会の中核を担う現在の小・中・高校生にとっても不可欠な素養です。ここでは SDGs 関連の統計データなどをグローバルな視野で表示する最新のデジタル地球儀「スフィア」（小型普及版「触れる地球」）を活用し、SDGs 関連の事象を多角的・総合的に捉える試みを紹介します。
4 ゼロからはじめるプログラミング教育 榎本竜二 聖心女子大学非常勤講師 新学習指導要領に基づくプログラミング教育の全面実施まで 1 年を切りました。そもそもプログラミング教育とは何なのか。悩める先生方のために、紙と鉛筆だけから始めて本格的なプログラミング教育に至る流れを、誰もが理解して授業ができる方法を提案します。後半では、実際にタブレットを操作してプログラミングを体験します。	8 身近な生きものをテーマとしたアクティブ・ラーニング！ 川原 洋 （一般財団法人）公園財団 環境教育推進室長 アメリカで開発された環境教育プログラムには、アクティブ・ラーニングや ESD 思考がふんだんに盛り込まれています。子どもたちは五感をフルに活用して、主体的、対話的に楽しみながら学びを深めることができます。楽しい学びは、子どもたちの成長に大きなプラスとなります。生きものの好きはもちろんのこと、生きものが苦手な方も楽しんでいただけたと思います。

7/26のみ

特別コース（教員免許状更新講習対象講座）

参加費（消費税込）：一般 6,000 円 学生 3,000 円

7月26日(金) 9：45～16：45

幼児教育実践講座

幼児教育とメディア～保育者・幼児に必要な情報活用能力とは～

堀田博史 園田学園女子大学教授

小学校では、学習の基盤となる資質・能力の一つに情報活用能力が位置づけられました。幼稚園・こども園・保育園ではどうでしょう？ 本講習では、保育でのメディア活用に注目して、保育者に求められる、そして幼児に必要な情報活用能力について、教育番組やタブレット端末活用などの実習を取り入れ、自らの保育方法・技術の向上を目指します。



教員免許状更新講習に認定されています

特別コースの 2 講座は、いずれも教員免許状更新講習の選択領域（6 時間）の講習として認定されています。更新講習の受講者は講習後試験があります。教員免許状更新講習は受講申し込み方法が異なります。詳細につきましては財団 HP をご覧ください。
<https://www.sainou.or.jp/license/>

7/26(金) 13：00～15：00

ワークショップの概要

A デジタル・シンキングツールで考えをつくり出す 黒上晴夫 関西大学教授 全ての学習の基盤となる資質・能力の一つに、考えるための技法があると考えられます。その習得には、思考を可視化して支援することが重要です。このワークショップでは、そのためのアプリを用いて、アイデアをカードに書き出し、他者と共有し、シンキングツールを用いて再構成して、「考えをつくり出す」流れを体験していただきます。	E ICT 活用授業のマネジメント 渡部 昭 墨田区教育委員会(元中学校校長) 新しい学習指導要領では「情報活用能力」を「言語能力」「問題発見・解決能力等」と同様に学習の基盤となる資質・能力と明記しています。しかし、「情報活用能力」と言ってもまだまだコンセンサスが得られているとは言えません。各学校の ICT の整備状況や活用の現状からどのような力をどの段階で習得させなければならないかを一緒に考えていきましょう。
B 3. 1 1 を学びに～あの日を語ろう、未来を語ろう～ 佐藤敏郎 元東松島市立矢本第二中学校教諭 東日本大震災から 8 年間、中・高生をはじめとした被災地内外の多くの人とともに、授業や地域活動の中で様々な取り組みや発信を続けてきました。女川、東松島、そして、大川小学校に関する事例を基に、3. 1 1 をどう学びに変えていくかを考えます。	F 情報活用能力を育てる探究学習のデザイン 稲垣 忠 東北学院大学教授 全ての学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力は、児童・生徒が情報を集め、整理・分析し、まとめたり表現したりする探究学習を通して育成できます。本ワークショップでは探究プロセスをカード化した「学習活動カード」を用いて単元をデザインし、活動に含まれる情報活用能力と、主体的・対話的で深い学びにつながる手立てを検討します。
C 小学校におけるプログラミング教育の授業実践 佐藤和紀 常葉大学教育学部専任講師 2020 年の新学習指導要領の実施まで残すところ 1 年となりました。しかし、「まだ授業の仕方がわからない」「なんでプログラミングなのかわからない」という方もいるのではないのでしょうか。本ワークショップでは、学習指導要領等から、なぜ今プログラミング教育を実施するのかを詳しく解説した上で、コンピュータを用いたプログラミングを体験していただきます。	G こんな時どう言い返す（主に中学校教諭対象） 池田 修 京都橘大学教授 生活指導は、その場、その時に口頭で、待ったなしで行わなければなりません。子どもたちの理不尽な、または一見筋の通ったかのように見える「文句」に、瞬時にきちんと言い返さなければなりません。そうしないと、生徒たちは勝手に「先生は許した」などと思うようになります。理論とケーススタディで学んでいきましょう。
D 情報社会を生きる市民の一人としての資質を育む情報モラル教育の指導法 今度珠美 鳥取県教育委員会情報モラルエドゥケーター ソーシャル・メディア時代の情報モラル教育とはどのように進めていくべきかを考えます。ICT の発達でできることが広がり、小学生でもメディア・メッセージの発信者として社会に影響を与える可能性が生まれてきました。情報社会を生き、創造する市民の一人としての資質を育む新たな情報モラル教育とはどうあるべきなのか、考えるべき視点と実践方法について検討していきたいと思います。	H 疑似体験を通して考える合理的配慮と特別支援教育 小林 玄 東京学芸大学学生支援センター障がい学生支援室講師 通常の学級において特別支援教育を展開する時には、どのような留意点があるのでしょうか。集団での学習活動に参加することが困難な児童生徒に対して、どのような観点で配慮を行えば合理的配慮となりえるか、発達に偏りのある児童・生徒の困難さに類似した体験（ワーク）を通して一緒に考えていきたいと思います。

授業改善につながるカリキュラムマネジメント

村川雅弘 甲南女子大学教授

他実践者 2 名

育成を目指す資質・能力と子どもや地域の実態をふまえてどんな力を育てていくのか、そのための授業づくりをどう進めるのか、教職員の共通理解の下で組織として考え実践していくことが「カリキュラムマネジメント」です。

本講習では、学校が抱える様々な課題への対応で成果をあげた小・中学校の実際の事例について、カリキュラムマネジメントの観点から分析し、協議・検討を行うことで、日々の授業改善につながる授業研究およびカリキュラムマネジメントの手法について学びます。



講習の流れ

講義・解説

事例発表

事例分析

パネルディスカッション

総括